

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	公営住宅整備事業(二ツ山団地建替)	会計	一般会計	事業No.	542	施策順No.	36-019
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-5-3-11-2		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名		地域計画課			
施策	36 生活困難者の自立及び支援	事業期間	開始	20	終了	30	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	低額所得者等で自助努力のみでは住宅を確保できない世帯へ供給している公営住宅等 (1号市営、2号市営、3号市営及び4号市営住宅)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		公営住宅需要推計で算定された対象世帯数(世帯)	-	1339	1339	1339	1355	
		管理戸数(戸)	-	875	875	907	907	
	意図	老朽化した二ツ山団地の建替を行い必要戸数を確保する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	全体供給戸数(戸)／需要推計による必要戸数(戸)%	-	93	93	94	94	94	A
	供給戸数(戸)／計画戸数(戸)%	-	0	0	22	22	34	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	目標に対してその成果を数値で表すと上の表のようになり、十分達成したといえる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>公営住宅は、公営住宅法で定められた低額所得者等の住宅不足を緩和するため昭和20年代から供給されてきた。市の公営住宅等は現在875戸のストックがあるが、耐用年限が過ぎて建物や設備の老朽化が著しいものもあり、改善・建替・用途廃止等を飯田市住宅基本計画に基づき計画的に行っていく必要がある。中でも老朽化が著しく下水道が平成23年度までに敷設される二ツ山団地については建替を行う。</p> <p>また、二ツ山県営住宅については、平成18年から県より移管要請があり、県営住宅部分も含めた二ツ山団地全体の建替計画とする。建替は木造平屋及び2階建とし、平成21年度から35棟140戸を7工区に分けて建設を行って行く。建替で生じる余剰地は今後処分を検討する。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	二ツ山団地建替事業 政策空家、第1工区の完成及び入居 移転助成 第2工区建築変更設計 第2工区造成詳細設計	建設戸数 変更・詳細設計	32戸 2件
23年度実施計画	二ツ山団地建替事業 政策空家 第2工区(Aタイプ2棟8戸、Bタイプ1棟4戸、Cタイプ1棟4戸、計4棟16戸)の 造成工事及び建設工事(平成23年度、24年度債務負担)	建設戸数	16戸

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	79,465	79,465	75,705	特定財源内訳、補足事項 (国)社会資本整備総合交付金(地域住宅)(5.5/10) (地)公営住宅建設(充当率100%)
		県支出金				
		起債	65,800	60,400	96,000	
		その他				
	一般財源		21,218	26,551	7,500	
	計(A)	166,483	166,416	179,205		
	正規職員所要時間		1,039			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		3,715			
	トータルコスト A+B		170,131			

4 事業に対する市民や議会の意見

二ツ山団地は建替要望あり(平成12・9月定例議会)。
----------------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の目的 生活に困っている人が ①課題や不安を持つ人が少なくなる。 ②自立した生活を送ることができる。	施策の成果指標又はムトス指標	生活相談者数/人口(外国人を含む) %
				公営住宅の入居戸数(戸)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	低額所得者等への住宅の供給により、入居者の生活の安定と自立の支援を図った。		
	後期に向けた課題	引き続き低額所得者等への住宅供給により、入居者の生活の安定と自立の支援を行う。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	財政状況を考慮し、必要最小限の整備計画としている。		
	後期に向けた課題	引き続き財政状況を考慮し、必要最小限の整備計画とする。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	間取りを工夫することでコスト削減を図った。		
	後期に向けた課題	引き続き設計の段階で間取りなどを工夫することでコスト削減を行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	公営住宅法に定められた収入に基づいた家賃となっている。		
	後期に向けた課題	公営住宅法に定められた収入に基づいた家賃となっている。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	法に基づき市が設置し管理する住宅である。		
	後期に向けた課題	法に基づき市が設置し管理する住宅である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	生活に困っている人が自立した生活を送ることが出来るなど、目的に沿った整備を進めてきた。		
	後期に向けた課題	引き続き生活に困っている人が自立した生活を送ることが出来るように整備を進める。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------